

実務教育としてのワープロ検定の必要性

田村聡一郎*・河野 紫信**

A Discuss on Vocational Education

—— A Grading Test for Wordprocessor ——

Soichiro TAMURA, Shinobu KAWANO

Key Words: 実務教育 vocational education, ワープロ検定 grading test for wordprocessor, 精神的自立 mental independence, 経済的自立 economical independence

I. はじめに

男女雇用機会均等法の制定(1986年)により、雇用機会や待遇面での法律上の男女格差はなくなった。しかし、女性が職業人として自立し実務社会に対応できる教育が、高等教育の中でどの程度展開されているだろうか。本学では早くから教養や専門に関する科目とは別に実務教育のための科目をカリキュラムの中に取り入れ(廣兼ら, 1993)、教養・専門・職業の三位一体の教育を展開している。そのため、卒業に必要な単位を取得させるだけにとどまらず、経済的自立の一助となる資格(教職、栄養士、秘書士、衣料管理士)の取得を義務づけている。また、就職活動や就職後の技能として必要であると同時に自分を高める手段ともなる各種検定(ワープロ検定、漢字能力検定、秘書技能検定、ビジネス文書技能検定、英語技能検定、情報処理検定)の取得も奨励している。

本学では、女性は集中力・持久力・手先の器用さに非常にすぐれており、これらの能力がコンピュータの操作に適している(坂田, 1988)という考えのもとに、実務教育としてのコンピュータ教育をかなり充実させている。そして、その一貫としてワープロ検定を取得させることにも力を入れている。現在ではワープロの操作技能を持っていることがあたりまえの状況になりつつあるが、より上級の検定の取得は経済的自立の手段と十分になりうる。また、ワープロの操作技術の上

達は練習量に比例し自らの努力が入力速度等の目に見える形で現れるので、自信を持たせる材料として適している。したがって、自らの努力によって検定を取得することがこれからの自分の自信になり、精神的自立の一助ともなると考える。さらに、就職採用の判断においても、企業側は単にワープロの操作技能の有無だけを見ていたのではなく、決められた期間の中で目的達成のために努力をする能力があるか否かもみているのではないかと思われる。このような理由から、一般職に就職する学生はもちろんのこと、ワープロ技能を必要としない専門職に就職する学生も出来る限りワープロ検定を取得したほうが良いと考える。

そこで、ワープロ検定の取得に対する本学のこのような考えがどこまで学生の側に浸透しているかを検討するために調査を実施した。あわせて、ワープロ検定対策の検討材料とするための項目も追加して調査した。

II. 調査方法

1. 対象

生活文化学科(以下生文と略す)2年生156名、生活科学科栄養専攻(以下栄養士と略す)2年生50名、生活科学科生活科学専攻(以下生科と略す)2年生103名、合計309名

2. 実施時期

平成6年2月17日

3. 実施方法

クラス毎にアンケート用紙を一斉に配付し、その場

* 教養教育

** 生活文化学科

で回答させた後、回収した。

4. 質問項目と回答形式

- 1) ワープロ検定の取得の有無を「はい」、「いいえ」から選択させた。
- 2) 1)で「はい」と回答した学生に対して中央職業能力開発協会主催ワープロ技能検定（以下能開と略す）2級，能開3級，日本商工会議所主催ワープロ検定（以下日商と略す）3級のうち，取得したもののすべての取得学年，月，何回目に取得したかを回答させた。
- 3) 1)で「いいえ」と回答した学生に対して検定を受けた回数を記述させた。
- 4) 短大においてワープロ検定を取得する必要があるかないかについて「ある」、「なし」から選択させた。
- 5) 4)で「はい」と回答した学生に対して理由を下記の項目から複数選択させた。
 - ・就職の採用・不採用にかかわると思うから
 - ・就職した後で何か役に立つと思うから
 - ・最近では取得していることがあたりまえになってきているから
 - ・履歴書の資格の欄に書くことができるから
 - ・取得できたことが自信になると思うから
 - ・その他（自由記述）
- 6) 4)で「いいえ」と回答した学生に対して理由を下記の項目から複数選択させた。
 - ・就職の採用・不採用には関係ないと思うから
 - ・就職した後で何か役に立つとは思わないから
 - ・他の資格や検定を取得するほうが有益だと思うから
 - ・受検料が高すぎるから
 - ・取得のための練習に多くの時間が取られるから
 - ・将来的にも自分には全く必要がないと思うから
 - ・その他（自由記述）
- 7) 卒業後もワープロ検定を受検したいかについて「はい」、「いいえ」から選択させた。
- 8) 本学で実施している下記の検定のうち最も重要だと思えるものを選択させた。
 - ・ワープロ検定 ・漢字能力検定
 - ・秘書技能検定 ・ビジネス文書検定
 - ・英語技能検定 ・情報処理検定
 - ・いずれの検定も重要だとは思わない
- 9) 8)でワープロ検定以外を選択した学生に対して，ワープロ検定は何番目に重要かを数字で記入さ

せた。

- 10) 就職活動でワープロ検定について聞かれたかを「はい」、「いいえ」から選択させた。
- 11) 10)で「はい」と回答した学生に対して具体的内容を自由記述させた。
- 12) ワープロ検定取得のための対策で該当するものを下記の中から複数選択させた。
 - ・自分から積極的に時間を作って練習する
 - ・授業中に具体的な検定対策法をもっとする
 - ・土曜日，日曜日にも自由に教室が使える
 - ・放課後もできるだけ先生に指導してもらう
 - ・その他（自由記述）
- 13) ワープロ検定の希望実施月を8つ以内で選択させた。
- 14) 所属学科を回答させた。

III. 結果および考察

(1) ワープロ検定の受検率と取得率

少なくとも一種類以上の検定を受検している割合は全体の87.1%（生文82.1%，栄養士96.0%，生科90.0%）であった。これに対して，少なくとも一種類以上の検定を取得している割合は全体56.1%（生文57.1%，栄養士50.0%，生科57.7%）であった。検定の取得率は生文と生科で7割，栄養士で6割を期待しているが，その目標には達しなかった。ちなみに少なくとも一種類以上に受検した者のなかで取得出来た者の割合は64.4%であった。

表1 ワープロ検定（能開）の取得時期と取得までの受検回数（単位：人）

級	2 級				3 級				
	回数	1	2	3	計	1	2	3	計
取得時期	1年7月	1	0	0	1	25	0	0	25
	10月	1	0	0	1	39	0	0	39
	2月	1	1	0	2	26	11	0	37
	2年7月	1	0	0	1	5	4	4	13
	10月	0	0	0	0	0	0	0	0
	2月	0	1	1	2	0	0	0	0
合計	4	2	1	7	95	15	4	114	

注) 2級の取得者数が実際の取得者数より少ないのは取得時期が未回答のためである。

これら検定取得者（特に3級）の半数以上が1学年の10月までに取得している（表1）。この時期以降の取得者が少ないのは、1年前期に開設されているコンピュータ演習Ⅰでのみワープロ操作技能を教授していたことと関連性が高いと思われる。

次に在学中に検定を取得出来なかった者はどのくらい受検しているのだろうか。ワープロ検定未取得者について受検回数別にその割合を算出した（図1）。その結果1回だけの受検者が未取得者数全体の45.2%を占めており、2回以上受検している者は少ない。1回だけの受検者は恐らく強制的に受検をすすめられたという意識が強いと思われる。これはワープロ検定取得の目的が十分理解されていないことの現れといえるであろう。強制ではなく自ら受検し取得するまで受検するという意識を持たせる必要がある。

(2) ワープロ検定取得の必要性に対する認識

在学中にワープロ検定を取得する必要があると回答した者は全体の92.2%で、高い値を示した。ワープロ検定取得が必要だと思う理由として「就職して役に立つ」と回答した者が全体の83.5%で一番多く、ついで「履歴書に書ける」と回答した者が全体の44.7%であった（表2）。「自分の自信になる」と回答した者は37.7%であった。大半の学生が就職時や就職後に役に立つという実質的な理由で必要性を感じているが、「自分の自信になる」といった精神面での必要性はあまり感じていない。

つぎに、これらの必要性を感じていない者は学科によって割合が異なるであろうか。これを検討するために、必要性の理由ごとに各学科での比率に対して χ^2 検定を行った。その結果「就職の採用・不採用に関係

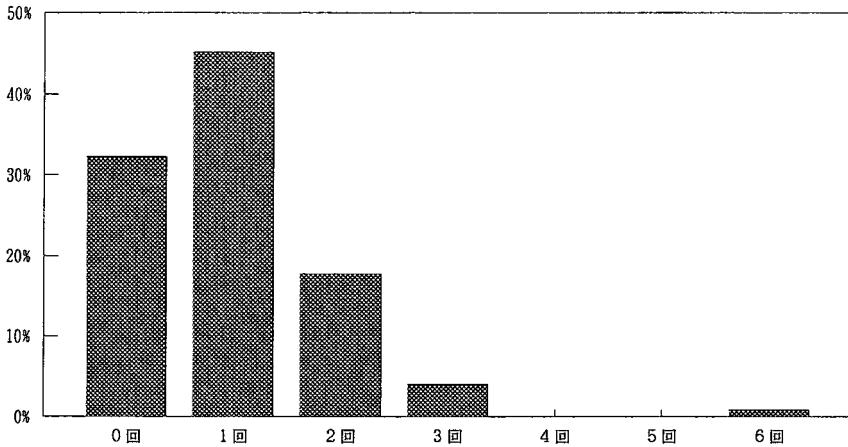


図1 ワープロ検定未取得者の受検回数

表2 ワープロ検定取得が必要だと思う理由

(単位：%)

理由	学 科	生 文 (N=141)	栄 養 士 (N=46)	生 科 (N=97)	全 体 (N=284)
就職の採用・不採用にかかわると思うから		17.0	34.8	29.9	24.3
就職した後で何か役に立つと思うから		87.2	69.6	84.5	83.5
最近では取得していることが当たり前になってきているから		31.9	63.0	40.2	39.8
履歴書の資格の欄に書くことができるから		45.4	52.2	40.2	44.7
取得できたことが自信になると思うから		39.7	28.3	39.2	37.7
その他		0.7	0	4.1	1.8

する」、「就職して役に立つ」、「取得してあたりまえ」の3つの理由で有意差がみられたため（それぞれ $\chi^2_{(2)}=8.5$, $\chi^2_{(2)}=8.0$, $\chi^2_{(2)}=14.0$, $p<.05$ ）、多重比較としてライアン法による2条件ずつの χ^2 検定を行った。その結果、「就職の採用・不採用に関係する」の理由では、生文に比べて栄養士のほうが有意に割合が高く（ $\chi^2_{(2)}=5.5$, $p<.05$ ）、「就職して役に立つ」の理由では、栄養士に比べて生文のほうが有意に割合が高かった（ $\chi^2_{(2)}=6.4$, $p<.05$ ）。また、「取得してあたりまえ」の理由では、生文・生科に比べて栄養士のほうが有意に割合が高かった（ $\chi^2_{(2)}=5.6$, 12.8 , $p<.05$ ）。このように、専門職に進む割合の高い栄養士が「就職して役に立つ」と思っている比率が低いにもかかわらず、「取得してあたりまえ」という意識は高い。しかし、一般職に就く割合の高い生文や生科では「就職して役に立つ」という認識はしているが、「取得してあたりまえ」という意識は低い。たしかに数年前まではワープロを操作出来ることだけで技術者として採用されたケースもあったが、現在ではワープロを操作出来る当然という時代になっている。以上のことから、授業の中でワープロ検定取得の必要性（特に自分の自信になること）やワープロ検定の取得はもはや特別のことではないことを今以上に指導し認識させる必要がある。

卒業後もワープロ検定を受けたいかという設問に対しては、全体の36.6%のものが「はい」と回答し、そのうちすでに検定を取得している者は全体の19.6%であった。約2割の者がより上級の検定の取得を望んでいる。すなわち本学では卒業生もワープロ検定を受検できるようにしている（平成4年度：3名受験し2名が日商3級合格、平成5年度：6名受験2名が日商2級合格）が、今後卒業生の受検者数が増加するのであ

れば、それに対応するシステムを考える必要が生じてくる。今後の検討事項としたい。

(3) ワープロ検定の重要度に関する認識

本学で実施している検定のうち、最も重要だと思う検定を1つ選択させた結果を図2に示す。

ワープロ検定を最も重要だと思う者が全体の51.4%を占めている。最も重要だとしなかった者のうちワープロ検定の重要度を2番目および3番目に上げた者の合計数は全体の41.6%に達し、大部分の学生が他の検定と比べてワープロ検定が重要であるという認識を持っている。またワープロ検定、秘書技能検定、ビジネス文書検定のように就職後すぐに役立つと思われる検定に対して重要度の認識は高い傾向にある。

(4) 就職採用試験におけるワープロ検定取得の評価

企業側がワープロ検定の取得にどのくらい関心を持っているかを知る手がかりとして、採用試験の面接時にワープロ検定に関して何か質問されたかを調査した。その結果、全体の8.7%の者が面接時に何らかの質問を受けている。その内容は取得の有無に関するものが最も多かったが、その他に「使用機種は何ですか」「授業はどんな内容ですか」、「日商と能開の違いはなんですか」、「なぜ取らなかったのですか」、「どうして落ちたのですか」、「必要だと思いませんでしたか」、「ワープロは使うことができますか？ 会社では使うことが多いです。」といった質問も見られた。就職活動においてワープロ検定の取得が常に関われるわけではないが、どのような企業においても質問される可能性はあるといえる。したがって、これらの質問に的確に答えることのできるよう指導しておく必要がある。

(5) ワープロ検定取得のための対策についての意識

ワープロ検定取得のための対策として「自分で積極的に時間を作って練習する」と答えた者は、全体の約

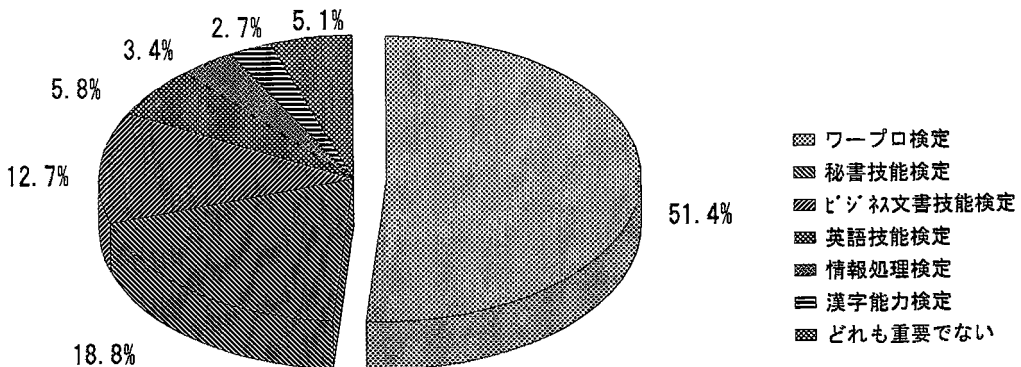


図2 最も重要だと思う検定

83.0%、「授業で検定対策をもっとする」は28.2%、「放課後でもできるだけ先生に指導してもらおう」は21.3%であった。この割合は学科による違いが見られなかった。

「その他」の回答の中には「模擬試験をやしてほしい」という意見が多かった。ほとんどの学生が自分で練習するしかないと認識しているが、全体の約5割の者が検定対策の講習の実施や放課後の指導等も要望している。これらの要望に応えるためには、授業内外でのさまざまな対応を検討していかなければならない。

最後に、ワープロ検定の実施希望回数を集計した結果、年平均4回を希望する者が最も多かった。現在行っている検定は年間で、能開3回（2級・3級同日実施）、日商2級2回、3級2回であり、学生の希望に対応できていると考える。今後も現在の実施回数を確保していくとともに、より上級の検定の取得をめざして2年間で計画的に受検させる指導をしていきたい。

IV. 全体的考察

本調査結果により、学生のワープロ検定に対する必要性・重要性に対する意識は高いことが確認された。しかし、受検率の高さと比較して取得率が低く、一度失敗した学生が2度3度と挑戦することも少ない。このような現象がなぜ生じたのであろうか？このことを考えるために、まずワープロ検定取得のプロセスを示す。（図3）

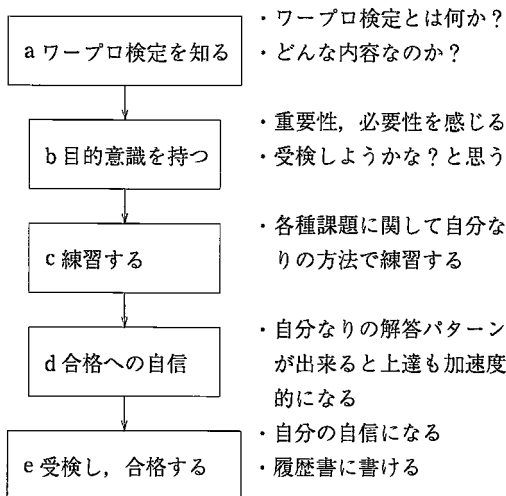


図3 ワープロ検定取得までのプロセス

大部分の学生がbの段階（目的意識を持つ）へは到達しているように見えるが、cの段階（練習）につなげていないと思われる。つまり、ワープロ検定の一般的な必要性は認識していても、自分自身にとって本当には必要性を感じていないのではないだろうか。具体的には就職活動や就職後に役立つと考えている者が多い反面、自分の自信になると考えているものが少ないという結果に現れている。栄養士では就職後役立つと考えるものが少ないが受検率や取得率では他の学科と変わらない。このことから、精神面での重要性についてもっと認識させる必要があると思われる。つぎにcの段階では、効果的練習方法、達成度が分からず挫折するケースが多いと思われる。今回の調査結果でも見られるように、自分で練習する事が一番重要であることは認識しているが、教員による指導や模擬試験の実施も必要としている。この解決策を一部実践した形となったのが、平成5年度のコンピュータ演習の内容の変更である。平成5年度入学生から、前期のコンピュータ演習Ⅰに続いて後期のコンピュータ演習Ⅱにおいてもワープロの授業を行っている。ここではワープロの操作を教授するだけでなく、与えられた項目や条件をもとに独自の文書を作成させ、文書の構成員や表現力を育成している。このようにして一年間を通してワープロの操作を行わせるようにした結果、ワープロ検定取得数が今回の調査対象となった学生の1年終了時のそれと比較して約2.2倍に増加した。

しかしながら、今後の課題とすべき項目もいくつかある。まず第一に、すでにワープロの技能があるレベルまで達している者とキーボードに触れたことさえない者とを合同で授業している問題である。高校までにワープロ操作を体験している学生が年々増加しているが、全く初めてという学生の方が依然としてはるかに多い。したがって、現状ではワープロの操作技能のレベルに合わせて個別に課題を与えているにとどまっている。しかし今後は個別課題の内容や授業形態を見直し、高いレベルの技能を持つ者が経済的自立の一助となる、より上級の検定を取得できる体制を整えたい。このことは、より上級の取得を要望する学生に対する指導においても同様である。在学生、卒業生を問わず、上級のワープロ検定取得の要望は今後ますます増加するものと予想される。平成6年度からは能開ワープロ検定の2級と3級を同日実施とせず、2級受検者への指導に専念できる期間を設けることにしている。

最後に他の検定との関連性の問題である。

ワープロ検定の課題をこなすためにはビジネス文書の知識や漢字能力が必要となる。したがって、各検定をばらばらに取得させる指導より、時期をあわせて取得させる指導の方が遙かに効率的であり、結果的に実務教育の充実にもつながるであろう。したがって、本学で実施している検定をどのように関連づけて体系的に取得させていけばよいかを検討し、具体案を提出したいと思う。

引用文献

- 1) 廣兼孝信・田村聡一郎・河野紫信 1993 本学におけるコンピュータ教育 広島文化女子短期大学紀要, 26, 1-6.
- 2) 坂田正二 1989 地域に根ざした女性教育 リクルートカレッジマネジメント, 35, 25-27.

Summary

It is general for young people to have proficiency in operating wordprocessor today. Aquisition of higher grade in a grading test for wordprocessor helps students become financially independent. And their effort to pass the certificate examination helps them gain confidence. Students become mentally independent through it.

For the reason given above, I think students should acquire a grading test for wordprocessor as much as they can (if it is possible). Then, to inquire how much they understand teachers principle for a grading test for wordprocessor, I sent out a questionnaire as follows.

- 1 The population of the students who take a grading test for wordprocessor test and those who passed it.
- 2 Understanding of necessity of a grading test for wordprocessor.
- 3 Understanding between employment test and a grading test for wordprocessor.
- 4 consciousness of leaning environment to aquire a grading test for wordprocessor.

The following results were obtained: Many students think a grading test for wordprocessor helps them get a job and do a good job. They are aware of practical importance of it. But, I think they are not aware of mental importance, because few students answered that hard study for a grading test for wordprocessor makes them become self-confident.

Thus, I think it is necessary for teachers to promote students understanding of such a mental value of a grading test for wordprocessor.